

## 4 調査、研究報告及び資料・情報等の発行

### (1) 公刊した報告書等

報告書名	発行年月	備考
平成27年度青森県産業技術センター水産総合研究所事業報告	平成29年4月	
平成28年度イカ類漁場開発調査資料第42号及び外洋性イカ(スルメイカ、アカイカ)に関する基礎調査資料	平成29年7月	
平成28年度地方独立行政法人青森県産業技術センター水産部門事業概要年報	平成29年8月	
平成28年度漁海況予報関係事業結果報告書	平成29年9月	
平成28年度定線観測結果表	平成29年9月	
平成29年度浅海定線調査結果報告書	平成30年1月	
未来につなぐ資源管理2018	平成30年3月	青森県と共同発行

### (2) 提供情報

情報名	期間及び回数
ウオダス漁海況速報 No. 1946～1981	平成29年4月～平成30年3月 (36回、号外35回)
陸奥湾湾口周辺海域のイカナゴ稚仔分布調査結果について	平成29年4月, 30年3月 (2回)
陸奥湾海況情報 No. 1132～1182	平成29年4月～平成30年3月 (51回)
ホタテガイ採苗速報 No. 639～659	平成29年4月～平成30年3月 (21回)
貝毒発生状況等速報	平成29年4月～平成30年3月 (33回)
陸奥湾の水温 (東奥日報紙)	平成29年4月～平成30年3月 (毎日)
陸奥湾湾口海域のイカナゴ幼魚(コウナゴ)分布調査結果について	平成29年7月 (1回)
ホタテガイ養殖管理情報	平成29年7月～平成30年1月 (6回)
平成29年ヒラメ稚魚分布密度調査結果について	平成28年9月 (太平洋、日本海各1回)
イカナゴ類夏眠場調査について	平成29年10月
平成29年漁期のハタハタ漁獲対象資源量の予測結果	平成29年9月, 11月 (2回)
付着生物(ユウレイボヤ等) ラーバ情報	平成29年10月～平成30年3月 (12回)
2017年漁期におけるヤリイカ冬季来遊群の漁況予測結果	平成29年12月 (1回)

### (3) 青森県水産研究情報 水と漁

発行番号	発行年月
第25号	平成29年7月
第26号	平成29年12月
第27号	平成30年3月

#### (4) 発表論文等

##### ① 学会等での発表

- 1) 杉浦大介: 青森県太平洋沿岸における震災前後のウバガイ稚貝の出現状況. 平成 29 年度日本水産学会東北支部大会. (2017. 10)
- 2) 竹谷裕平: 津軽海峡の沿岸漁場におけるキアンコウの行動と漁獲. 第 13 回日本バイオロギング研究会シンポジウム. (2017. 11)
- 3) Keiichi Uchida, Yoshinori Miyamoto, Hideki Noro, Yuka Wada, Yuuki Tanaka, Yousuke Ochi, Aki Miyagi and Seiji Akiyama: Monitoring of fish behavior in large scale set net. The eleventh annual meeting of Asian fisheries acoustics society. (2017. 11)
- 4) Goh Nishitani, Natsumi Takagi, ..., Yuki Kosaka, Akira Ishikawa: Development of new primer sets to detect prey DNA from marine dinoflagellate, *Dinophysis* spp. . 10th EASTHAB Symposium. (2017. 11)
- 5) 長野晃輔・三浦太智: 小型ミズダコの脱出リングを装着した改良籠の実用化. 平成 29 年度東北ブロック底魚研究連絡会議. (2018. 2)
- 6) 伊藤欣吾: 青森県におけるウスメバルの CPUE と資源量の動向. 平成 29 年度日本海ブロック資源評価担当者会議. (2018. 2)
- 7) 甲本亮太、三浦太智、高木牧子: 2017 年の日本海北部海域におけるハタハタ漁獲量の減少. 日本海ブロック資源評価担当者会議. (2018. 2)
- 8) 越智洋介・山崎慎太郎・野呂英樹・和田由香・秋山清二: 定置網に入網したクロマグロ小型魚の選別・放流技術の開発 I. 音響カメラによる行動観察. 平成 30 年度日本水産学会春季大会. (2018. 3)
- 9) 田中友樹: 定置網に入網したクロマグロ小型魚の選別・放流技術の開発 II. クロマグロ小型魚と大型魚、ブリの来遊水温について. 平成 30 年度日本水産学会春季大会. (2018. 3)
- 10) 今村豊: 青森県太平洋海域におけるスルメイカ漁獲量と水塊変動の関係について. 平成 29 年度東北ブロック水産海洋連絡会報. (2018. 3)
- 11) 佐藤晋一: 陸奥湾の pH の推移について. 平成 29 年度東北ブロック水産海洋連絡会報. (2018. 3)
- 12) 杉浦大介・菊谷尚久: 陸奥湾におけるアサリの生殖周期と短期垂下蓄養. 平成 30 年度日本水産学会春季大会. (2018. 3)

##### ② その他の投稿

- 1) 中屋光裕・竹谷裕平・鈴木亮・野呂恭成・高偉峰・高津哲也: キアンコウふ化仔魚の初期発育および無給餌生残時間と水温の関係. 水産増殖, 65(3), 251-254. (2017. 9)
- 2) 上野健一・島田小愛・高坂祐樹: 簡易測定法などを用いた貝毒のスクリーニング例. 水産学シリーズ, 187, 58-72. (2017. 9)
- 3) Daisuke Sugiura, Naohisa Kikuya: Validation of the age estimation method using the shell section of the Manila clam *Ruditapes philippinarum* in Mutsu Bay, northern Japan. Aquaculture Science, 65(3), 193-202. (2017. 9)
- 4) 三浦太智: 陸奥湾における近年のマダラ漁獲動向変動について. 東北底魚研究, 37, 2-4. (2017. 12)
- 5) 伊藤欣吾: 青森県におけるウスメバルの成長・成熟・VPA. 日本海ブロック資源評価担当者会議報告(平成 28 年度), 61-62. (2017. 12)
- 6) 内田圭一・小川大道・長谷川浩平・秋山清二・野呂秀樹・和田由香・宮本佳則: 超音波テレメトリーを用

いた定置網内のクロマグロ小型魚とブリの行動モニタリング. 日本水産学会誌, 84(1), 14-22. (2018.1)

7) 竹谷裕平・高津哲也・山中智之・柴田泰宙・中屋光裕: 青森県周辺海域におけるキアンコウの瘤状鼻管幅の性差. 日本水産学会誌, 84(1), 130-132. (2018.1)

8) Itsuro Koizumi, Yuuki Tanaka, Yukiyo Kanazawa: Mass immigration of juvenile fishes into a small, once-dried tributary demonstrates the importance of remnant tributaries as wintering habitats. Ichthyological Research, 64(3), 353-356(2017)

9) Itsuro Koizumi, Yukiyo Kanazawa, Chitose Yamazaki, Yuuki Tanaka, Kousuke Takaya: Extreme winter aggregation of invasive rainbow trout in small tributaries: implications for effective control. Ichthyological Research, 64(2), 197-203 (2017)